No. 5-03

ふくし井戸端会議

<table>
<tr><td>事業分野</td><td colspan="3">まちづくり</td><td>協働の形態</td><td colspan="3">情報交換、意見交換</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実施主体</td><td>行政</td><td colspan="6">福祉部地域福祉課</td></tr>
<tr><td>協働相手</td><td colspan="6">地域住民、福祉事業所、半田市社会福祉協議会等</td></tr>
<tr><td rowspan="2">（内訳）
参加者が固定ではないため※で記載</td><td>市民</td><td>地域コミュ</td><td>活動団体</td><td>ＮＰＯ法人等</td><td>事業者</td><td>教育機関</td></tr>
<tr><td>※人</td><td>※団体</td><td>※団体</td><td>※団体</td><td>※者</td><td>—校</td></tr>
<tr><td>実施期間</td><td colspan="3">平成 22 年度から</td><td>過去３年間
平均予算額</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>協働のゴール</td><td colspan="6">地域課題の共有・解決</td></tr>
<tr><td>ポイント</td><td colspan="6">地域住民主体の交流の場</td></tr>
</table>

協働に至る経緯と背景

第 1 次地域福祉計画の理念の実現を目指し、平成 22 年度から実施している。

事業内容と行政・協働相手それぞれの事業への関与の仕方

小学校区単位で、高齢・障がい・子育て・防災など、様々な分野の地域課題について地域住民や関係機関等で共有し、それらの解決に向けた話合い等を行う。市・社協等が公民館やサロン等に出向き、参加者と話をしたり、講座や勉強会を行う。

協働相手からの意見・評価

職員が地域に出ることで見えてくるものがあると思うので、今後も地域に出て住民と話し合いをしてほしい。

受益者からの意見・評価

日ごろから多世代交流ができるようになるといい。

協働して良かった点や成果、及び今後の課題・展望

・地域住民の集まる機会が欲しいという話から、「グラウンドゴルフをやってみよう。」ということになり、現在も週２回、地域住民の集まる機会となっている。

・サロン参加の高齢者から、「地域振興券の使い方がわからない。」という声があり、使用者から地域振興券の使い方を聞くことができて、小さな困りごとの解決ができた。

・子どもと高齢者等が参加するまち歩きイベントを開催し、地域の歴史や文化を知るとともに、参加者同士が顔見知りになり、地域のつながりを作ることができた。

・以前、地域住民で認知症の方が道に迷い、家に帰れなくなって保護されたことがあり、地域内で認知症に関心が向いていた。認知症についての勉強会をしたことで、地域住民が認知症の理解を深め、認知症の方の声掛け訓練を行うなど、発展的な活動を行うきっかけとなった。

・今後も、地域住民の集まるサロン等に出向き、地域住民の課題や困りごと等を聞き取り、それらを解決していくことや共有していくことは必要である。時勢や情勢が変わった際には手法を変えるなどしながら、地域の課題や困りごと等の解決に努めていく。

活動の様子（写真、チラシ等）

委員会総括評価
・地域の課題を地域で主体的に解決する仕組みとして、地域住民のほか事業所や市民活動団体など多様な主体が関わり始まった事業です。従前は会議に参加してもらう方法により実施していたところ、参加者の固定化など会議が形骸化してきたことから、現在は試行錯誤する中で、会議の開催にこだわらず、より困りごとや悩みを抱える方に寄り添うため、地域サロンにアウトリーチし、声を拾い上げニーズを掘り起こす方法により地域課題の解決や情報共有をしています。今後とも事業の目的を達成するため、福祉施策の変化や時代の流れに応じて積極的に方法の転換を図っており、持続可能性を高める取組をしている点で評価できる事業です。
助言・提言
①地域住民に伝わる情報発信、情報共有 ・福祉は高齢者や障がい者だけが関わることではなく日常的なものであり、自分事として考えるきっかけづくりや何かあったときに相談できる窓口を予め知ってもらうため、ふくし井戸端会議や地域サロンで話し合われた内容や知ってもらいたい情報を、SNS や掲示板などを活用し、情報発信することで、会議やサロンに参加する住民が増えたり、住民同士の交流が活発になるなど、より良い展開が期待されるのではないでしょうか。 ②ふくし井戸端会議の理念を引き継ぐ新たな仕組みの構築 ・現在、アウトリーチにより拾い上げている地域課題について、この先の展開として、例えば行政や社協が整理・集約し、他の地域への横展開につなげる取組など、ふくし井戸端会議の本来の目的を達成するため、持続可能な新たな仕組みづくりをしてはいかがでしょうか。